

公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証等作業部会の協議結果について

◎ 具体的対応方針（役割）について

No.	医療機関名	2025年において担う役割の方針											2025年に持つべき病床数の方針						
		がん	心血管疾患	脳卒中	救急	小児	周産期	精神疾患	災害	へき地	在宅	(地域医療支援病院) その他	計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	(無回復等) 休棟・廃止等	介護保険施設等へ移行
1	津島市民病院	△	△	○	○				○				352	7	297	48	0	0	0
2	あま市民病院				○								180	0	90	90	0	0	0
3	愛知県厚生農業協同組合連合会海南病院	○	○	○	○	○	○	○	○		○		534	187	347	0	0	0	0
		構想区域計 (2025年における病床数の必要量における公立・公的医療機関の割合)											1,066 (53.8%)	194 (101.0%)	734 (114.7%)	138 (17.9%)	0 (0.0%)	0 -	0 -
		2025年における病床数の必要量											1,981	192	640	772	377	-	-

※ 国が再検証を要請する際に、分析を行った診療実績データ（手術件数等）の領域において、その一部を担う場合に「△」を付した。

※ 上記表における「構想区域計」は、構想区域内の公立・公的医療機関病床数合計を指す。

1 経緯

公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証等作業部会（以下、「部会」という。）の構成員は、5月及び7月に開催された部会において、各病院が集計したデータを基に具体的対応方針について検討を行った。

その過程において管内公立・公的病院は、今後もそれぞれが置かれた地域及び医療環境において適切に機能するため、緊密に連携して海部構想区域の地域医療に今まで以上に貢献していくことで意見の一致を見た。

その詳細について、下記のとおり海部構想区域地域医療構想推進委員会に報告する。

2 協議結果報告

※ 記載の件数については、病床機能報告において各領域で報告する手術等に限定している。

(1) がん

愛知県厚生農業協同組合連合会海南病院（以下、「海南病院」という。）は手術全般と放射線治療を担い、津島市民病院は乳腺・消化器・泌尿器等の手術と外来化学療法を担う。

また、あま市民病院は必要に応じて、海南病院及び津島市民病院への患者の紹介や術後の回復期医療を担う。

・年間手術件数 海南病院 約2,000件
津島市民病院 約 300件

(2) 心血管疾患

心筋梗塞等の心血管疾患の治療において、海南病院は外科手術が必要な患者を担い、心臓カテーテル手術については津島市民病院も担う。

- ・年間手術件数 海南病院 約 200 件
津島市民病院 約 20 件

※ 「急性心筋梗塞に対する心臓カテーテル手術」及び「外科手術が必要な心疾患」を件数としている。

(3) 脳卒中

緊急性の高い手術については海南病院が担い、脳動脈瘤クリッピング手術等については津島市民病院も担う。

- ・年間手術件数 海南病院 約 100 件
津島市民病院 約 20 件

※ この他、脳梗塞については、あま市民病院においても担い、その他の疾患について他の公立・公的病院等への紹介と術後の回復期医療を担う。

※ 「超急性期脳卒中加算」「脳動脈瘤クリッピング手術等」「開頭血腫除去手術等」及び「血栓除去手術等の脳血管内手術」を件数としている。

(4) 救急医療

救命救急センター(※1)を備える海南病院が構想区域全体の3次救急医療を担い、365日救急車を受け入れる津島市民病院が構想区域全体の2次救急医療(※2)を担う。

また、第2次救急医療体制の搬送協力医療機関であるあま市民病院は、構想区域東部を中心に救急患者を受け入れており、構想区域の救急医療において役割を担っている。

- ・年間救急車受入台数 海南病院 約7,000台
津島市民病院 約4,000台
あま市民病院 約1,000台

※1 第3次救急医療施設（救命救急センター）

第2次救急医療機関の後方病院として、脳卒中・心筋梗塞・頭部損傷その他特殊診療部門（熱傷、小児、中毒等）における重篤救急患者の救命医療を担当する。

※2 第2次救急医療施設

第1次救急医療機関の後方病院として、入院又は緊急手術を要する救急患者の医療を担当する。

(5) 小児医療

入院医療を有する小児・新生児については、海南病院が担う。

津島市民病院及びあま市民病院は小児科外来を行い、必要に応じて海南病院等への紹介を行う。

- ・年間小児入院管理料等 海南病院 約7,000件
津島市民病院 現在入院受入休止

(6) 周産期医療

ハイリスク分娩を海南病院が担う。

津島市民病院及びあま市民病院は必要に応じて海南病院に患者を紹介する。

- ・年間ハイリスク分娩件数 海南病院 約300件

(7) 災害医療

海南病院は、地域中核災害拠点病院(※3)として、津島市民病院は地域災害拠点病院(※4)として、災害における中核的医療を担う。

また、あま市民病院は、現時点では災害拠点病院でないが、海部構想区域の病院の中で最も新しい免震構造の病棟を有しており、標高も比較的高いことから災害時には構想区域外から派遣される医療救護班等の拠点として機能を担う。

※3 地域中核災害拠点病院

地域中核災害拠点病院とは、災害医療機関を支援する機能を有する病院で、重症・重篤な傷病者を受け入れるなど、災害時の医療救護活動において中心的な役割を担う病院として位置づけられている。

※4 地域災害拠点病院

災害拠点病院とは、日本において、地震・津波・台風・噴火等の災害発生時に災害医療を行う医療機関を支援する病院である。